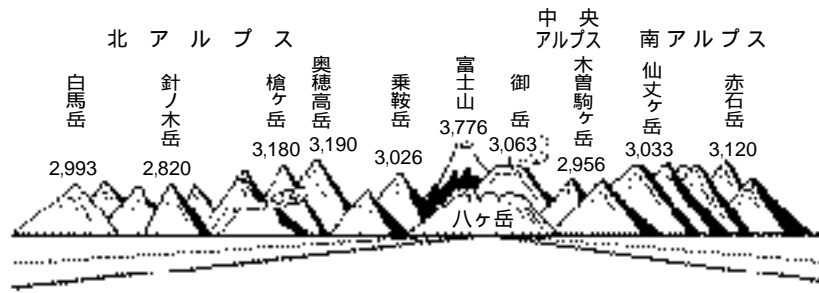


第 40 号

平成19年5月



長野県砂防課のマスコット “サー坊”

砂防ニュースロー長野



災害関連緊急砂防事業により、対策が進む 岡谷市待張川

目 次

「会長退任のあいさつ」..... 2	「シンポジウム」平成18年7月豪雨と上伊那の土砂災害 ... 6
新任のあいさつ..... 3	平成18年度「土砂災害防止に関するポスター・作文」入賞について ... 7
平成19年度砂防関係予算..... 3	『湊が元気になるために私ががんばること』 8
砂防協会災害現地研修会 4	『生きるということ』 9
(社)全国治水砂防促進大会開催..... 4	平成18年7月豪雨土石流災害検討委員会からの提言 ~土砂災害を知る~ 10~11
第14回環境砂防会議 5	新たな「土砂災害警戒情報」提供開始 12
砂防および地すべり防止講習会報告 5	異動の挨拶・砂防関係等主な予定 12

砂防事業キャッチフレーズ

今、日本の屋根長野から新・砂防の発進を

「会長退任の挨拶」



旧生坂村長
寺島 宗正

本県は日本の屋根と呼ばれるアルプスの山々を抱え、雄大な山脈と豊富な清流、四季折々の美しい豊かな自然に恵まれた環境にあります。

しかしながら地形は急峻なうえ、脆弱な地質が広く分布しているため、全国でも有数の土砂災害多発県であり、県民はこれまでも多くの土砂災害に悩まされてまいりました。

長野県治水砂防協会では、土砂災害が発生するたびに、砂防関係施設の充実と警戒避難体制

の推進を各方面に訴えると共に、毎年行われる全国治水砂防協会の総会や促進大会には、全国一の出席者で臨んできました。これもひとえに、砂防事業に対するご熱意と御尽力の賜と深甚なる謝意を表する次第であります。

砂防関係事業は、「県民の安全で安心な暮らし」を支える根幹的事業であります。県内の土砂災害危険箇所の整備率は2割程度にとどまっております。依然として整備が不十分な状況にあります。

今後も国・県・市町村が強い連携のもと、ハード対策とソフト対策が一体となった効果的な土砂災害対策の推進が図られますよう御祈念申し上げますと共に、長野県治水砂防協会のより一層の発展と関係の皆様のご健勝をお祈り申し上げ退任の挨拶と致します。

「自然と折り合って」



旧木島平村長
柳澤 萬壽雄

「砂防ニュースレター長野」に原稿を、という依頼があり、卒業生に思い出を(?)ご配慮とありがたくお受けしたが、さて、いざとなると小生の協会歴としては、平成13年から

飯水岳北土木振興会長として5年チョット、協会役員の末席を穢したに過ぎず、あまり字になる活動もなく、日頃感じてきました事を書かせていただくことにしました。

田中前知事の脱ダム宣言以来、県下の治水砂防対策は大きなツゲが残されたと思っておりますが、特に浅川については、その下流域に住む木島平村や飯山市木島地区、昭和57年に千曲川からの逆流により本村樽川堤防が決壊し木島地区の790棟が水没、牛230頭溺死、その後当時の倍ほどにも大きく強化された堤防でさえも、平成16年の台風23号豪雨によるバックウォータと青ざめた。地域住民からすれば、治水はなんとしても流域総合対策でやるべきです。上流域でパイピング現象が起き、あわやまた決壊かでの洪水のピークカットは是非必要だと。北信広域圏知事懇談会でも、田中前知事に申し上げたが、千曲川に棹さした程にもならなかったと今では

苦笑いの思い出です。

幸い、現県政のご協力と地元の御理解でいい方向に進んでいることは、新幹線の用地問題も含めて、嬉しいかぎりで一層の進展を願っていますが、もとより自然を尊重する考えを否定するものものではありません。いかに折り合いをつけ共存するかだと思います。

最近テレビで、藍色回廊殺人事件という番組を見ました。内田康夫の同名小説の映画化ですが、テレビの方は中抜けが多く、あまり面白くありませんでした。特に、この物語の中心となる吉野川(四国三郎)河口付近に江戸時代に作られた「第十堰」を撤去し、可動堰を作るという計画にからむ殺人事件と云う設定がハッキリせず、第十堰もチョット画面に写っただけでした。きわめて、壮大で美しく、「吉野川には、無くてはならない世界的資産だ」と言う地元の自慢にふさわしい景観がうかがえ、是非見たい気持ちにかられました。江戸時代とすれば、とてつもない自然破壊だったでしょう。しかし、今や世界的資産とまで言われる第十堰には、自然や人の心に同調する高い文化性すら感じてしまいます。県内にも「牛伏川階段工」と言う有名な砂防施設があります。他にもあると思いますが、人や暮らしの安全を守る為には、自然や景観に深い配慮をしながらも、質の高い土木工学の力を最大限活用する事が、どうしても必要だと。県協会のますますの発展をお祈りします。

「新砂防課長挨拶」



新砂防課長
栗原 淳一

この4月から原砂防課長の後任として着任いたしました。よろしくお願ひします。まず、自己紹介いたします。

出身は、東北・盛岡ですが、建設省入省後、広島、静岡、富山、大阪、新潟、東京での勤務を経験しました。前任は、つくばにある独立行政法人土木研究所です。

昨年の7月豪雨災害の際に、4回ほど岡谷の災害現場に入りました。長野県内の他の砂防の現場に比べてどちらかといえば勾配は緩く、斜面が荒れていたようにも思えませんでした。このような大災害になる土砂災害の恐ろしさを改めて認識しました。特に、流木が被害を大きくしている印象が強く残っています。

なお、災害後に行われた有識者による「平成18年7月豪雨土石流災害検討委員会」から、この3月に村井知事宛に御提言をいただきました。

この提言の内容を住民の皆様にはわかりやすく説明し、“土砂災害を知り、減災への取り組みを考える場”として、5月9日に岡谷市文化会館「カノラホール」においてシンポジウムを開催いたします。

長野県砂防課の平成19年度の当初予算は、昨年の災害対応を踏まえ100億円を超え、平成17年度のレベルに戻りました。厳しい財政状況の中、これもひとえに市町村長さんや国会・県議会議員の方々のご支援の賜と思っております。

一方、今年の6月より气象台と連携して行う土砂災害警戒情報の運用が開始されます。土砂災害防止法の指定も4,100箇所を突破しました。

今後は、これらのツールが現場で本当に効果のあるものに育てていかなければなりません。

また、今年も雨の季節がやってきます。これまでの災害の教訓を踏まえ、少しでも土砂災害をなくすよう、微力ではありますが取り組んでいきたいと思ひます。

さらに、平成20年度予算の獲得に向けて活動も展開していきたいと考えています。

引き続き、皆様のご支援、ご指導をよろしくお願ひします。

平成19年度砂防関係予算

平成19年度の本県砂防関係事業の当初予算は、公共事業費が94億円強で対前年比1.20、県単事業が7億円弱で対前年比1.10となっており、災害関連事業を加えた全体事業費は約110億円弱で、対前年比1.20となっております。

平成19年度砂防関係予算

(単位：千円)

事業名	平成19年度当初県予算(A)	平成18年度当初県予算(B)	対前年当同比(A)/(B)
●砂防総務費	380,175	193,445	1.97
●補助事業			
□砂防費	5,703,000	4,127,000	1.38
□地すべり対策費	2,110,000	2,097,000	1.01
□急傾斜地崩壊対策費	1,599,000	1,589,000	1.01
小計	9,412,000	7,813,000	1.20
●災害関連緊急砂防等事業			
□砂防費	120,000	115,200	1.04
□地すべり対策費	316,200	315,900	1.00
□急傾斜地崩壊対策費	41,000	40,500	1.01
小計	477,200	471,600	1.01
●県単事業			
□砂防費	382,193	380,693	1.00
□地すべり対策費	140,748	140,248	1.00
□急傾斜地崩壊対策費	170,568	107,568	1.59
小計	693,509	628,509	1.10
●砂防受託費	10,000	35,000	0.29
計	10,972,884	9,141,554	1.20

長野県治水砂防協会災害現地研修会

行程 岡谷市役所 小田井沢川(H18災害関連緊急砂防) 岡谷市役所(意見交換会)

沢底沢右支川(H18災害関連緊急砂防) ヒライシ沢(H16通常砂防完了) 横河川左支川

(H18災害関連緊急砂防) 岡谷市役所(解散)

平成18年11月21日に、協会員及び県職員67名が参加し、平成18年7月豪雨災害現地研修会並びに意見交換会が実施されました。

当日は、7名もの尊い命が奪われた小田井沢川等の現地を見学し、災害の恐ろしさを痛感しました。

また、えん堤により土砂をくい止めたヒライシ沢では、改めて施設の重要性を認識しました。意見交換においては、林岡谷市長より今回の災害での対応、対策等について説明をいただくとともに「市民総参加による、防災意識の高揚が何よりも必要。」と今後の取組みについてお話していただきました。



また、原砂防課長より災害発生後、速やかに専門家に派遣をお願いし、適切な対応を図ることが必要であること。土砂災害について、過去から啓発活動を行っているが、なかなか住民の皆様様に浸透していない状況であること。住民任せとならないよう行政主導も必要であること。等を話していただきました。

平沢諏訪建設所長からは、今回の災害は「諏訪西山地区は安全な地域」という安心感があつた。今の雨の降り方は局地的豪雨となる恐れが多い。雨量情報等適切な情報を行政が早く提供すると共に、住民も入手することが大切であり、これにより避難へ結びつけていくことも肝要との説明がありました。今回の研修が、今後起こりうる災害時に少しでもお役に立てれば・・・。

皆さん、あらためて「自助、共助、公助」この言葉を今一度、考えてみましょう。

(社)全国治水砂防促進大会

平成18年11月28日、砂防会館別館において、全国治水砂防促進大会が多数の国会議員を始め、国土交通省関係者の出席をいただき盛大に開催されました。本県からは、寺島会長をはじめ78名の会員・関係者が参加されました。

大会開会前に特別講演として、「災害対策と特色ある地域づくり」と題して、NHKアナウンサーの上田早苗さんから講演いただきました。特別講演終了後、綿貫会長が開会の挨拶をされ、安富国土交通事務次官から祝辞をいただきました。つづいて、亀江国土交通省砂防部長より「砂防行政の動向について」と題して講演いただきました。

また、会員代表者として林岡谷市長(2007・2号「砂防と治水」掲載)は、映像に併せて被災状況と行政の取組みについて意見発表を行いました。その後藤原会長より促進活動並びに大会提言を発表し、満場一致で採択されました。

砂防関係事業の要望活動

大会終了後本年度も役員・関係者による要望活動を行いました。

砂防関係事業の促進と「県民の生命・財産を守り、安全で安心して暮らせる、地域づくり」を実現するため、予算確保等について国土交通省、財務省、国会議員に対して要望を行いました。

第14回環境砂防会議

平成18年12月25日(月)、長野県庁講堂において、環境砂防会議（長野県砂防課、長野県治水砂防協会共催）が、開催されました。環境砂防会議は、環境に配慮した砂防事業に取り組むため、平成3年から開催されており、今年で14回目を迎えました。

長野県は、平成18年の7月豪雨により死者12名、行方不明者1名という近年希にみる大災害にみまわれました。そこで、今回の環境砂防会議では、環境に配慮した砂防事業について2事例の発表に加え、平成18年7月豪雨災害の被災状況に関する発表がありました。

また、東京農業大学教授 太田猛彦先生より「森林の災害防止機能について」、原義文砂防課長より「環境に配慮した砂防事業」と題した講演を賜りました。太田先生は、森林の災害防止機能とその限界についてふれながら、森林のもつ多面的な機能について様々なデータから科学的に分かりやすくお話されました。また、原課長は、最新のデータを用いながら、山腹工を主として環境に配慮した砂防事業についてお話されました。この講演には、県職員、市町村職員に加え、土木・治山事業に関わる方々に幅広くご出席いただき、230名の方々が熱心に耳を傾けました。



講演の様子

【事例発表】

「高山地における自然環境に配慮した崩壊対策」	姫川砂防事務所	主任 池田 誠
「土砂災害防止法及び景観に配慮した施設設計」	松本建設事務所	主査 浜 弘安
平成18年7月豪雨災害		
「県内の被災状況について」	長野県砂防課	主査 大月哲也
「岡谷市の被災状況」	岡谷市危機管理室	主幹 古川幸男

【講演】

「森林の災害防止機能について」	東京農業大学	教授 太田猛彦
「環境に配慮した砂防事業」	長野県土木部	参事兼砂防課長 原 義文

砂防および地すべり防止講習会

平成19年3月15日、16日の2日間に、(社)全国治水砂防協会主催による、第47回砂防および地すべり防止講習会が盛大に開催されました。

本会に先だって赤木賞授与式が行われ、ハザードマップの作成等火山砂防事業の推進と発展に対する業績が顕著であった荒牧重雄氏（東京大学名誉教授）が、第34回赤木賞を受賞されました。授与式に引き続き、荒牧氏から「火山学と火山砂防学」と題しまして、理学者という工学者とは違った立場から貴重な講演を賜りました。

特別講演に引き続き、亀江幸二国土交通省砂防部長を始めとする11人の講師から、砂防および地すべりに関する幅広い講習を受けました。その中で長野県土木部砂防課の荻窪孝主査も、「市町村と連携した土砂災害警戒区域等指定への取り組みについて」と題しまして講演を行いました。多種多様で中身の濃い講義が行われ、非常に有意義な講習会となりました。

【報告】“シンポジウム”平成18年7月豪雨と上伊那の土砂災害

平成18年7月15日～19日にかけて、辰野町では連続雨量が411.5mmと観測史上1位を更新しました。伊那建設事務所管内では11箇所の土砂災害が発生し、2名の尊い人命が失われ、当地域に甚大な被害を与えました。今回の土砂災害の悲惨さを後世に語り継ぐとともに、今後の土砂災害から私たちの生命、身体を守るための情報の発信の場として「“シンポジウム”平成18年7月豪雨と上伊那の土砂災害」が、平成19年2月7日(水)に辰野町民会館にて開催されました。



祝辞を述べる大久保理事長

当日は、国土交通省河川局砂防部砂防計画課の中野泰雄課長、全国治水砂防協会の大久保駿理事長もご臨席され、参加者は950名にのぼりました。上伊那地域の皆様の土砂災害に対する関心の高さを計り知りました。



北澤秋司先生の基調講演

最初に信州大学名誉教授の北澤秋司先生が、管内11箇所の土砂災害の発生メカニズムについて、住民の皆様にもわかりやすく講演されました。つづいて事例発表では住民の方、建設業、消防署、行政、警察関係の方がそれぞれの立場で、今回の豪雨災害による生々しい体験談を発表していただきました。

ロビーでは関係機関から寄せられた災害の生々しい写真や土砂災害11箇所の発生メカニズムのパネル展示があり、来場された皆様がスタッフの説明に熱心に聴入っていました。

パネルディスカッションは、信州大学農学部教授の平松晋也先生をコーディネーターとして、パネラーに小坂榎男伊那市長、矢ヶ崎克彦辰野町長、平澤豊満箕輪町長、原義文砂防課長、松下泰見伊那建設事務所長、コメンテーターとして国土交通省河川局砂防部の中野泰雄課長に参加していただきました。内容は、災害時自治体は何をしたか、土砂災害防止への取り組み、土砂災害に対する日頃からの備え、についてそれぞれの立場で論議を深めました。

平松先生は最後に「これまで災害が起こらなかったから大丈夫ではなく、今まで起きなかったから災害の危険度が増していると考えべき。」また、「森林の安全神話が一般に強く支持されているが、森林の持つ保水機能を超えると災害を助長することを理解して、森林機能を活かした防災施設整備が必要。」さらに、「県は土砂災害の危険性を啓発していたが、今回の豪雨災害で犠牲者が出てしまった。行政の知らせる努力にも限界があるので住民への啓発活動をいかにしていくかが課題である。災害が発生した場合は、住民が一方向的に支援を求めるのではなく、自助努力し、そこで対応しきれないことは行政の公助を受け、住民と行政が力を合わせた共助によって対応することが大切。」とまとめました。



パネルディスカッション



会場内の状況

平成18年度「土砂災害防止に関するポスター・作文」入賞について

国土交通省では、土石流、地すべり、がけ崩れ等の土砂災害から人命、財産を守るため、毎年6月を「土砂災害防止月間」と定め、種々の行事を実施しているところですが、その一環として、全国の小・中学生を対象に、土砂災害及びその防止についての理解と関心を深めることを目的に、絵画・ポスター・作文を募集しています。

平成18年度の募集においては、全国の小中学生から5,459点、県内からは163点の応募がありました。

国土交通省における審査の結果、本県から作文(小学生)の部で中島夏恋さん(岡谷市立湊小学校)、作文(中学生)の部で山岡美菜さん(岡谷市立岡谷南部中学校)が国土交通大臣賞(最優秀賞)を受賞するなど県下で5名の方が入賞しました。

国土交通大臣賞の表彰式は、本年2月28日(水)に岡谷市役所で行われ、国土交通省河川局砂防部砂防計画課の井上卓砂防管理室長から受賞者の二人に賞状と記念品が手渡されました。

1 受賞者

国土交通大臣賞(最優秀賞)

【作文(小学生)の部】 なかしま かれん 中島 夏恋さん(岡谷市立湊小学校) 4年

【作文(中学生)の部】 やまおか みな 山岡 美菜さん(岡谷市立岡谷南部中学校) 2年

国土交通事務次官賞(優秀賞)

【作文(小学生)の部】 いなみ るな 伊波瑠奈さん(大鹿村立大鹿小学校) 4年

砂防部長賞(佳作)

【ポスター(小学生)の部】 みやしたくれは 宮下紅葉さん(長野市立東条小学校) 6年

【ポスター(中学生)の部】 もろおかりな 師岡莉奈さん(私立才教学園中学校) 1年

2 平成18年度応募数及び入賞者数

部 門	小 学 校			中 学 校			計
	作文	絵画	ポスター	作文	絵画	ポスター	
全国応募総数	383	900	1,446	664	409	1,657	5,459
うち県内応募数	40	2	63	2	0	56	163
入賞者数	国土交通大臣賞	(1)1	1	1	(1)1	1	(2)6
	事務次官賞	(1)3	3	3	3	3	(1)18
	砂防部長賞	10	11	(1)12	10	11	(1)11

※カッコ内は県内入賞者数



宮下さんのポスター



師岡さんのポスター

『湊が元気になるために私がかんばること』

岡谷市立湊小学校4年 中島夏恋



私たちの住んでいる湊は、7月に土石流災害をうけて、7人も亡くなってしまいました。

学校に行けるようになってから、災害にあった場所を見に行きました。高速道路

のコンクリートに土砂がすごくかかっています、こわれた家がたくさんありました。花岡の船魂神社の木が守ってくれた家もありました。

湊小学校や南部中学校もひなん所になって、たくさんの方がひなんしたそうです。

災害は人の命をうばう事があってとってもこわいです。

このままじゃまた災害が起きて、人が亡くなってしまいます。だけど、長野県の人たちが湊のために小田井沢の方などに砂防えん堤を作ってくれます。また災害が起きたら、砂防えん堤が少しでも役立つといいです。災害が起きた時はみんな元気がなかったけど、家の中に入ったドロや水を出したり、物を運んだりしてがんばっていました。船魂神社のたおれた木やきずついた木に薬をぬったり包帯をまいたりしてくれました。

私は、ひがいがあった人や、地域の人に元気がよく挨拶をして、元気になってもらいたいです。学校に行く時や帰る時に外に立って挨拶してくれる人がいるのでしっかり笑顔で挨拶をしたいです。

地域の方のすごいと思う所は、この災害で亡くなってしまった人や家をなくしてしまった人がいて悲しいけど私たちに笑顔で挨拶をしてくれる所です。

湊小学校は全校で、9月28日にお守りペンダント作りをやりました。災害にあった地域の人や家族の人にあげる事にしました。うらに言葉を書いて作りました。元気が出るようにがんばって作ったので、大切に使ってほしいです。

湊小学校は11月11日に音楽会があります。6年生はリコーダーをやって、私たち4年生は合奏で「アイアイ」と言う合奏の曲と、合唱で

「おそすぎないうちに」と言う歌を歌います。キレイな声で歌う事や、最初から最後までできるようにがんばっています。おそすぎないうちには少し悲しいけど、アイアイは楽しい曲なので元気になってほしいです。地域のたくさんの方が来てくれるとうれしいです。

おそすぎないうちにで心をこめて歌いたい所は、『今あるすべての物は当たり前なんかじゃなく、今あるすべての物がきせきてきにあるとしたら、きみはどうやってそれを守るだろう』と言う所と、『おそすぎないうちに、まに合う今のうちに、できるかぎりのことをしよう、生まれてこられたお礼に』です。2番も同じような所です。私の1番大切な物は、命、家族やおじいちゃん、おばあちゃんに買ってもらった物です。

私の1番大切な人は、家族、おじいちゃんおばあちゃん、すべての人です。

今できる事、やらなきゃいけない事は、親に心配をかけたり、うそをつかない事と、命の勉強をしっかりやって、他の勉強も一生けん命やる事と、家族や友だちにやさしくしたり、お話をいっぱいする事です。

今できる事、本気でやっている事は、学校の行きと帰りに外に立っていたり散歩をしている人に大きい声で挨拶をする事です。

湊小の4年生は11月21日に長野に行って勉強をします。県庁で防災センターの人の話を聞きます。話を聞く時に、話をしている人の方を見てしずかに聞きます。長野へ行く前に、災害の勉強や浅間山の噴火の勉強などを一生けん命やりたいです。浅間山の噴火は、どのくらいの大きさで、どのくらいの早さで流れてくるのかとかのわからない事をわかるようにしたいです。長野で他に行く所は、善光寺です。私は小さい時に一回善光寺に行っておかいだんめぐりでカギをさわりました。カギをさわると幸せになれると聞いて、がんばってさがしてさわりました。長野旅行で善光寺に行っておかいだんめぐりで幸せのカギをさわったら、地域の人や家族の人に少しでも幸せを分けて、自分も幸せになりたいです。

ひがいをうけた人に元気になってほしいです。

『生きるということ』

岡谷市立岡谷南部中学校2年 山岡美菜



他人の死をとて悲しんだこと、それは多分、誰にでもあると思います。けれど、死という言葉が誰もが簡単に扱います。それは、自分の死がどれほど怖いか考えた人が少ないからだだと思います。

七月の土石流災害で私は死にかけました。はっきり言って生きていた方が奇跡でした。多分、たくさんの偶然が重なって、なんとか生きていたんだと思います。

その日の朝、四時頃起きていました。雷のような音が続いていたからです。それは、山から流れてきた岩が、道路の下の土管を転がり落ちてきていたのです。そのうち、その岩は下でつまって、水がふきあげました。濁った水が、かなりの高さにふきあがっていました。私はその頃、着替えて、一日分の着替えをバッグにつめ終わり、明かりをつけて新聞を読んでいました。ですが、そのうち、停電したのです。私は外に出ていた母に伝えました。

「お母さん、電気消えちゃったよ。」

それが最後の言葉でした。電柱がゆれ始め、電線が次々に切れて、頭上で火花を散らしたのです。いそいで玄関に入り、ドアを閉めた瞬間、すきまから見たものは、家ほどの高さの土と木の塊でした。

瞬間の判断で、私は二階に駆け上がりました。そうしなければ私は肩までも泥につかって流されていたか、埋もれていたでしょう。私の家の一階は川と化していました。大木も何十本も突っ込んでいました。

下でメキメキと音がするし、電柱が倒れ、電線がショートし、爆発が起きました。その爆

発で、二軒上の家が火事になったのです。

家にとり残された私は、一刻もはやく逃げたくて窓を開けました。土のおいがすごかったです。救助をしに来てくれた方々が私をみつけてくれたので、私は裸足で屋根を歩いて脚立で下に降り、ひざまで泥につかって久保寺へと逃げました。お寺で父と母に再会しました。

今も思い出せるほど、あの時の恐怖はすごかったです。普段どんなに「死」という言葉を使っても、そう簡単に死ぬ覚悟は出来ません。それを、身をもって体験しました。「死ぬ」だの、「死ぬ」だの、みんなが日常で使うけれど、「死」はそう簡単に表せるものではないし、表してはいけないと思います。やっぱり、「死ぬ」と感じると、すごく怖いし、「死にたくない」と思います。それは、聞いただけでは分かるようなことではないと思うけれど、そのことをたくさんの人に、きちんと考えてほしいのです。

この災害は、あらゆるものを奪っていきました。家も、財産も、日常も。けれど、こうやって命があるのだから、この命を無駄にはしたくありません。そう考えられるようになったからこそ、「死」ということを簡単に扱わず、命を大切にするというのを、私は伝えたいと思います。どんなに小さいことでも考えることがもしあったら、今から変えてほしいと思います。



平成18年7月豪雨土石流災害検討委員会からの提言 ～土砂災害を知る～

1 はじめに

平成18年7月15日から24日にかけての梅雨前線豪雨により、全国各地で多くの土砂災害が発生し、甚大な被害をもたらしました。

特に長野県下の岡谷市周辺では土砂災害が集中的に発生し、10名の尊い命が奪われるなど大きな被害が生じました。

このようなことから今回の土石流災害の発生原因を明らかにし、今後の長野県における土砂災害対策への取り組みに反映させるため、学識経験者からなる「平成18年7月豪雨土石流災害検討委員会」を設置し、以下の提言を平成19年3月にいただきました。



小田井沢川（岡谷市湊3丁目）

2 検討委員会メンバー

委員長	北澤 秋司	（信州大学名誉教授）
	只木 良也	（名古屋大学名誉教授）
	平松 晋也	（信州大学農学部教授）
	小山内 信智	（国土交通省国土技術政策総合研究所 危機管理技術センター砂防研究室長）
	栗原 淳一	（独立行政法人土木研究所 土砂管理研究グループ上席研究員）
	林 孝標	（国土交通省関東地方整備局 河川部河川計画課建設専門官）



知事への提言

3 検討委員会からの提言

提言の概要は以下のとおりです。

（1）発生原因及び特徴

《気象状況》

最大24時間雨量，最大2日間雨量が観測史上最大（気象庁諏訪雨量観測所）という未曾有の豪雨が誘因となっている。

《地形・地質》

塩嶺累層の凝灰角礫岩を基盤とする地域で発生したもので，凝灰角礫岩の上位には，浸透した降雨をため込む性質をもつローム質の土壌が存在していた。

また，比較的大規模な土石流が発生した箇所（小田井沢川，志平川，的場川）の下流部は扇状地形を呈しており，過去に土砂流出があったことが示唆される。

(2) 土砂災害対策の基本方針

「減災」を目指した砂防えん堤等のハード対策を強化・推進し、次の事項に該当する土砂災害危険箇所の解消に努める。

- ・ 土砂災害発生箇所における再度災害を防止する。
- ・ 避難場所、災害時要援護者施設及び道路網等のライフラインを保全する。
- ・ 中山間地の集落孤立化を防止する。
- ・ 地域の防災拠点となる施設を保全する。

警戒避難情報の発信等のソフト対策と連携した施設整備を進める。

市町村・住民に土砂災害対策の基本方針を周知するとともに、より一層の警戒避難体制の充実を図る必要がある。

(3) 警戒避難体制の強化

土砂災害に対する防災意識の向上

- ・ 県土の多くの地域においては、いつ土砂災害が発生してもおかしくない状況にあるため、地域住民は常に土砂災害の危険と隣り合わせであることを認識すべきである。

土砂災害警戒区域指定の推進・土砂災害危険箇所の周知

土砂災害に精通した防災リーダーの育成

- ・ "川の水が異常に濁る、雨が降り続けているのに川の水位が下がる、腐った土の臭いがする"などの前兆現象を確認した場合に、土砂災害を意識して地域住民を避難させる必要性・切迫性を理解できる防災リーダーを育成していく。

地域住民の行動

- ・ 住民は、長野県及び市町村により開催される土砂災害警戒避難に関する地域勉強会等から得られた知識を活用し、常日頃から気象や自然の急激な変化に対応する備えを自主的に行い、行政機関とともに地域における防災力の向上を目指していく必要がある。

4 おわりに

今回いただいた提言を踏まえて今後、長野県が取り組んでいく土砂災害対策について、市町村、消防団、そして県民の皆様にとりやすく説明し、地域と行政が一体となり、“土砂災害を知り、減災への取り組みを考える場”として、平成19年5月9日(水)に岡谷市文化会館「カノラホール」においてシンポジウムを開催いたします。

平成18年7月豪雨土石流災害検討委員会の詳細については、
<http://www.pref.nagano.jp/doboku/sabo/kaigi/dosyaken/dosyaken.html>からご覧ください。

新たな「土砂災害警戒情報」提供開始

土砂災害警戒情報は、大雨による土砂災害発生の危険度が高まったときに都道府県と気象台が共同で発表する新たな防災情報であり、市町村長が防災活動や住民等への避難勧告等の災害応急対策を適時適切に行えるよう支援すること。

また、住民の自主避難の判断等となることを目的としています。

長野県では、平成19年6月から運用を計画しており、全国では、現在(H19.4.1)までに14府県で運用しており、19年度末までに、ほとんどの都道府県で運用の予定です。

発表は市町村単位を基本としていますが、市町村合併により、広大な面積を有する市町村が誕生しており、災害発生の地域特性や気象特性の違いにより、長野県での発表地域区分は、長野市、松本市、飯田市、伊那市、塩尻市をそれぞれ分割し、86地域での発表を行ってまいります。

長野県砂防課では、市町村のどの地域が危険な状況であるかを補足情報として、インターネットを利用して、砂防課HP「砂防情報ステーション」で詳細情報を提供します。防災担当者に限らず、降雨時には、是非、ご覧いただき防災に役立てて頂きたいと思っております。

砂防情報ステーション（画面一例）



「異動の挨拶」



原前砂防課長

原 義 文

平成19年3月31日付で長野県を退職しました。4月1日から国土交通省河川局防災課災害対策室長として、国土交通省全体の危機管理の窓口を担当しています。

長野県在職中の3年間は、長野県治水砂防協会の会員の皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。長らく厳しい状況の中にありましたが、皆様のおかげをもちまして再び砂防にも明るさが戻ってまいりました。

今後とも長野県の砂防のためにご支援をお願いいたしますとともに、皆様方の地域がますます元気になれることを祈念申し上げまして、ご挨拶といたします。

東京へお越しの際は是非お立ち寄り下さい。

平成19年砂防関係等の主な予定

5月9日(水)	長野県土木部 シンポジウム「土砂災害を知り、減災に取り組む」	岡谷市文化会館(カノラホール)
5月16日(水)	全国治水砂防協会通常総会 砂防講演会・懇談会	東京都(砂防会館) 東京都(砂防会館・麹町会館)
6月10日(日)	土砂災害講習会	長野市民会館(大ホール)
7月20日(金)	長野県治水砂防協会理事会及び会計監査	長野市(サンパルテ山王)
8月10日(金)	長野県治水砂防協会通常総会 総会・講演会・懇談会	長野市(ホテル国際21) 総会等・2F「芙蓉」懇談会1F「藤」
9月6日(木) ～7日(金)	シンポジウム「地震による土砂災害の教訓を継承し、現代に活かす」 ～善光寺地震から160年～	長野県県民文化会館
10月	長野県環境砂防会議	長野市
10月11日(木)	防災担当者のための土砂災害防止の実務講習会	東京都(砂防会館)
11月27日(火)	全国治水砂防促進大会・要望活動	東京都(砂防会館)